

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立不破高等学校
校長 大橋 雅之

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和2年度学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和3年2月15日(月)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者 委員 竹内 治彦 岐阜協立大学学長
和田 満 垂井町教育委員会教育長
中川 敏之 関ヶ原町教育委員会教育長
長谷川 妙子 関ヶ原町教育委員
林田 力 不破中学校校長
小川 美紀子 宮代保育園・幼稚園園長
田宮 仁史 特別養護老人ホームいぶき苑施設長
中村 美幸 地域住民
高木 佐知子 地域住民
高木 淳一 不破高校PTA会長

コミュニティスクール協力推進員

- 後藤 省治 垂井町議会議長
廣瀬 みどり 垂井町食生活改善協議会会長
多和田 恵子 垂井町バドミントンスポーツ少年団監督

- 学校側 大橋 雅之 校長
橘 博 教頭
臼井 澄人 教務主任
鈴木 孝慈 生徒指導主事
岩田 眞和 進路指導主事

5 会議の概要（協議事項及び委員のご意見等）

- ・コロナ禍の中、教職員がいろいろと工夫してこの1年を過ごしてきたことが、報告書からよく伝わってきた。
- ・学校経営や学習指導、進路指導に関する生徒アンケートで、約80%の生徒が満足しているとの結果が得られたことは、それだけ本校が生徒の実態を大切にしつつ、指導を行ってきた証であると考え。また、保護者からも学習指導や進路指導に対して満足度が高いことが分かり、安心した。
- ・コロナ禍が原因と考えられるが、生徒指導の遅刻や交通事故に関する自己評価が、件数の増加等により、評価「C」という結果になったことが残念である。ただ、多様な生徒への対応に関する自己評価が「A」であることは良かった。
- ・生徒の実態を大切にし、生徒主体の授業や行事をはじめとした改善策の具体的実践に努めることを期待する。
- ・生徒、保護者、教職員が一体となって取り組むことの大切さを相互に理解し、それぞれの立場で前向きに実践していることが、アンケートの結果に表れている。
- ・生徒の様々な困り感に丁寧に向き合い、個に応じたきめ細やかな教育活動が展開されている。
- ・学び直しや加点評価の導入などにより学習意欲を喚起し、授業改善に組織的に取り組むことで着実に成果を上げている。
- ・一人一人の進路実現に向けて、あらゆる支援策を粘り強く実施する姿から、本校の教育力、愛情が伝わってくる。
- ・生徒が主体的に判断し、責任ある行動ができるよう、共感的な生徒理解に努めている。自己指導能力を育成し、自己肯定感を高めるための指導が積み上げられている。
- ・新型コロナウイルス感染症による臨時休業中の丁寧な対応が、保護者・生徒の安心・安全につながっていると感じた。
- ・「不破高校ひびきあい活動」の「ピンクシャツDay」は、今の時代にとっても大切な活動だと思う。
- ・自己評価の結果及び分析から、生徒、保護者にとって安心して学べる高校であることがよくわかる。
- ・対面でのボランティア活動や交流活動が難しい状況を踏まえ、オンライン等で思いを伝えたり受けとめたりするところにも値打があると感じた。
- ・「概ね満足」というあまり表に出ない生徒の困り感（学習・人間関係等）を把握するのは大変だと思うが、継続して満足度を上げてもらいたい。
- ・地域連携による活力ある学校づくり推進事業が、コロナ禍により計画通りには実施できなかったことは残念だが、延期やオンライン実施などの工夫をして、よく推進されている。
- ・地域連携を掲げながら、地域のみならず企業、大学、中学校との連携にも力を入れた事業が多くみられ、そのことから活性化しようとする意図がよく伝わった。
- ・コロナ禍なので…と止めるのではなく、オンライン相談、LINE スタンププロジェクト、70周年を盛り上げるクッキー作りと常に新しいことを取り入れて、挑戦している姿がよい。
- ・医療関係企業との業務提携による「思春期の女子生徒向け個別オンライン相談事業」の導入は、個人を守るという点でよいと思う。
- ・オンライン相談の開設はとても大切だと思うが、女子生徒向けだけでなく、男子生徒向けもあるとよい。

- ・新型コロナ感染対策による臨時休業等について、適切に対応されていることが分かった。
- ・コロナ禍でボランティア活動や部活動などを十分にできない部分があるが、状況を踏まえて前向きに取り組んでいる。
- ・今年度のオンライン交流は、園児たちにとって新鮮な取組であり、貴重な体験をさせていた
だいた。
- ・来年度は、できるだけ対面で交流できることを願っている。
- ・高校生との交流は、近隣保育園ならでの取組であり、園児にとって貴重な体験になるので
継続してもらいたい。
- ・様々な活動の中でも、特にボランティア活動と部活動が、生徒自身の成長と自信につながっ
ていると思う。

6 会議のまとめ

今年度はコロナ禍であることを考慮して、全3回の学校運営協議会を書面開催としたが、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただくことができた。

いただいたご意見を参考にしながら、来年度の学校運営では、個々の生徒の自己実現を図るためにも、地域連携事業などできるだけ多くの行事に取り組んでいきたい。